

## ☀️ 数字で見る日・アフリカ関係

### 🎯 TICADの概要

TICADとは、Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議) の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行およびアフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催しています。アフリカ開発における、アフリカ諸国の「オーナーシップ」と国際社会による「パートナーシップ」の理念を具体化するTICADは、時代ごとにアフリカが直面する課題や状況を踏まえ、進化してきました。



<p><b>TICAD I 1993</b></p> <p>冷戦終結後、国際社会のアフリカへの関心が薄れつつある中で、アフリカへの関心を呼び戻すきっかけを創出。</p>	<p><b>1998 TICAD II</b></p> <p>今日のTICADにも通底するテーマである、アフリカ自身の「オーナーシップ」と、国際社会の「パートナーシップ」の重要性を提唱。</p>	<p><b>TICAD III 2003</b></p> <p>TICADの将来の方向性・重点的アプローチを示す「TICAD10周年宣言」を採択。</p>	<p><b>2008 TICAD IV</b></p> <p>経済成長の加速化、人間の安全保障の確立および環境・気候変動問題への対処を議論。野口英世アフリカ賞を創設。</p>	<p><b>TICAD V 2013</b></p> <p>「援助から民間投資へ」という考えの下、アフリカ首脳と日本の民間企業が直接対話を行うセッションを初めて実施。</p>	<p><b>2016 TICAD VI</b></p> <p>初のアフリカ開催。日本が初めて「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」を提唱し、アフリカの未来への投資を行うことを発表。</p>	<p><b>TICAD 7 2019</b></p> <p>「ビジネスをTICADの中心に」という考えの下、TICAD史上初めて民間企業を公式なパートナーと位置付け、日・アフリカ官民の直接対話を実施。</p>	<p><b>2022 TICAD 8</b></p> <p>二度目のアフリカ開催。アフリカと「共に成長するパートナー」として、<sup>じん</sup>強靱なアフリカを実現していく考えを表明。「人」に注目し、「人への投資」、「成長の質」を重視するアプローチを強調。</p>	<p><b>TICAD 9 2025</b></p> <p>日本の技術と知見をいかした「革新的課題解決策の共創」をテーマに議論。民間セクター主導の持続的な成長、若者・女性の人材育成、地域統合および域内外の連結性に焦点を当てた。</p>
--	---	---	---	---	---	--	--	---

#### 野口英世アフリカ賞

アフリカの地で黄熱病の研究に注力した野口英世にちなみ、アフリカの医学研究または医療活動分野において顕著な功績を挙げた者に、TICADの機会に与えられる賞。TICAD 9では、医学研究分野でアブドゥライ・ジムデ博士が、医療活動分野で「顧みられない病気の新興開発イニシアティブ (DNDi)」が表彰された。



アブドゥライ・ジムデ博士。  
マラリアの治療と制御の改善に貢献



ルイス・ピザロDNDi代表。  
「顧みられない熱帯病」(21の疾患) の治療薬・治療法の研究開発に貢献

#### アフリカへのビジネス展開

アフリカにおける民間投資の促進への強い期待の下、TICAD VIで「日本・アフリカ官民経済フォーラム」を立ち上げ、TICAD 9においても「官民ビジネス対話」が開催され、「経済多角化」、「地域内統合・連結性及び域外連結性」および「ファイナンス強化」をテーマに、アフリカとのビジネス拡大を後押しすべく、自由闊達な議論を実施。日系企業のアフリカにおける拠点は過去15年で倍増しており、大企業にとどまらず、スタートアップなども進出が見られ、今後のさらなるビジネス交流が期待される。



「TICAD Business Expo & Conference」の企業ブースを視察する石破総理大臣 (当時) (写真:内閣広報室)